

第6分科会 美術教育

自分の思いを広げ、進んで表現しようとする児童の育成

— 一人ひとりの感性を大切にしたい造形活動を通して —

1. 設定理由

本校の児童は、自分から進んで課題を見つけたり、課題解決へ向けて自分の考えを表現したり、よりよい解決方法を見出したりすることを苦手とする傾向がある。進んで表現し、自信をもって活動できるようになることが課題の一つとなっている。

また、図画工作科において表現することを楽しいと感じていたり、想像することのおもしろさを感じていたりしているが、なかなか自分の思ったことを表現できない児童や、思い浮かばないと手が止まってしまう児童もいる。さらに、友だちの作品に関心をもっている児童が多く、友だちの作品のよさを見つけることができていると感じているが、それを伝えることについてはできていないと考えている児童もいる。

これらのことから、意図的に関わり合う場の設定をすることで、よさを伝え合い、自信をもって活動し、進んで表現することができるようになるのではないかと考え、本主題を設定した。

2. 研究仮説

学習活動の中で自分や友だちのよさに気づくような工夫を行っていけば、一人ひとりの感性が磨かれ、表現力が豊かになるだろう。

3. 研究内容

図画工作科において、児童どうしが交流し認め合う活動を活性化させることを手立てとし、作品づくりや鑑賞活動を行った。

4. 結論

○意図的に関わり合う場を多くもつことで、一人では気づけなかったことや解決できなかったことも、よりよい方法を見つけて作品づくりができるようになった。

○「よさをまねる」ことを肯定してきたが、それを参考にし、それぞれ個性のある作品が仕上がるようになったことで、表現力の豊かさが伸びたと感じている。

○教員の作品例は、材料の扱いがわかるなど有効であり、児童の意欲を向上させる効果もあったが、反面、低学年の児童の中には、作品例に近づくことができず、本人の評価をさげってしまうことも見られた。適切な助言で改善していく必要がある。

○具体的な手立てを考え実践する中で、教員の意識にも変容があった。

印旛支部

佐倉市立下志津小学校

池内美知子

伊藤和希

1 研究主題

自分の思いを広げ、進んで表現しようとする児童の育成
～一人ひとりの感性を大切にしたい造形活動を通して～

2 主題設定の理由

(1) 学習指導要領から

小学校学習指導要領 図画工作科の目標は、「表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。」である。その達成には、児童本来に備わっている資質や能力を一層伸ばし、児童が自ら作り出す喜びを味わうようにする観点が重要になる。

「感性」は、様々な対象や事象を心に感じ取る働きであるとともに、知性と一体化して創造性を育む重要なものとされている。表現及び鑑賞活動において、児童は視覚や触覚など、様々な感覚を働かせながら、自らの能動的な行為を通して、形や色、イメージなどをとらえている。これを手掛かりに、自他や社会と交流し、主体的に表現したり、よさや美しさなどを感じ取ったりしているのである。「感性を働かせながら」とは、このような感覚や感じ方、表現の思いなど、自分の感性を十分に働かせることを示している。このことを実現させるために、一人ひとりの感性を大切にすることが必要であると考えた。

(2) 学校教育目標から

本校の学校教育目標は『明日のために 今を精一杯生きる子どもの育成 レッツ チャレンジ下志津っ子』である。これは、学習指導要領の基本的なねらいとなる『生きる力』を育むことと重なる。

「今を精一杯生きる子ども」は、受け身な学習姿勢ではなく、自ら課題を見出したり、課題に対して自ら関わったりすることにより育成されていくと考える。学ぶ姿勢として「児童一人ひとりの学習意欲を高め、自ら学ぶ学習態度を育成する学習指導の改善・研究」を学校経営の重点として打ち出している。学習活動を通して、児童が自分の思いを伝え、友だちの思いを知り、そこから思いを深めたり、新しい自分の意見が生まれたりする授業を行うことが、児童が自ら学ぶ学習態度の育成となり、さらに今を精一杯生きる子どもの育成につながると考えた。

(3) 児童の実態から

本校の児童は、学校教育への関心が高く協力的な家庭や地域に支えられた、恵まれた環境の中で、素直に育っており、与えられた課題は最後までやり遂げることができる。しかし、自分から進んで課題を見つけたり、課題解決へ向けて自分の考えを表現したり、よりよい解決方法を見出したりすることを苦手とする傾向がある。進んで表現し、自信をもって活動できるようになることが課題の一つとなっている。

また、図画工作科の授業を楽しみにしている児童が多く、表現することを楽しいと感じていたり、想像することのおもしろさを感じていたりしている。しかし、なかなか自分の思ったことを表現できない児童や、思い浮かばないと手が止まってしまう児童もいる。さらに、友だちの作品に関心をもっている児童が多く、友だちの作品のよさを見つけることは9割近

くの児童ができていると感じているが、それを伝えることについてはできていないと考えている児童もいる。

これらのことから、意図的に関わり合う場の設定をすることで、よさを伝え合い、自信をもって活動し、進んで表現することができるようになるのではないかと考えた。子どもたちの感性を大切に、思いを引き出せるような活動をさせていく必要があると考え、本主題を設定した。

3 研究の目標

図画工作科において、児童どうしが交流し認め合う活動を通して、感性を磨き、表現力を高める指導法を明らかにする。

4 めざす児童像

豊かに自分の思いを広げられる子
自分が考えたことを進んで表現できる子

上記のめざす児童像を踏まえ、より具体的なめざす児童の姿を発達段階に応じて以下に示す。

<めざす児童の姿>

豊かに思いを広げるために	
低 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ○自分たちの作品や身近な材料などを楽しく見ることができる。 ○感じたことを話したり、聞いたりすることで、形や色、表し方の面白さ、材料の感じなどに気づくことができる。
中 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ○自分たちの作品や身近な美術品や作製の過程などを鑑賞して、よさや面白さを感じ取ることができる。 ○感じたことや思ったことを話し合うなどして、いろいろな表し方や材料による感じの違いなどがわかることができる。
高 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ○自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみある美術品、暮らしの中の作品などを鑑賞して、よさや美しさを感じ取ることができる。 ○感じたことや思ったことを話し合うなどして、表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえることができる。

進んで表現するために	
低 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ○感覚や気持ちを生かしながら楽しくつくることができる。 ○好きな色を選んだり、いろいろな形をつくって楽しんだりしながら表すことができる。
中 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ○新しい形をつくるとともに、その形から発想したり、話し合ったりしながらつくることができる。 ○表したいことや用途などを考えながら、形や色、材料などを生かし、計画を立てるなどして表すことができる。

高 学 年	<p>○材料や場所などに進んで関わり合い、それらをもとに構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながらつくることができる。</p> <p>○形や色、材料の特徴や構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、表し方を構想して表すことができる。</p>
-------------	---

<評価規準について>

めざす児童像へ迫っているかを知るためにも評価を欠くことはできない。しかし、図画工作科における評価の課題として、指導者の主観が影響しやすいことが挙げられる。そこで本校では、国立教育政策研究所が定めている「評価規準の設定例」を参考に各題材で評価規準を設定した。以下に各学年における評価の観点の趣旨を示す。

○第1学年及び第2学年の評価の観点の趣旨

造形への 関心・意欲・態度	発想や創造の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
思いのままに表現したり、作品などを見たりしながら、つくりだす喜びを味わおうとする。	感じたことや材料などをもとに表したいことを思い付いたり、形や色、つくり方などを考えたりしている。	体全体の感覚を働かせながら材料や用具を使い、工夫して表している。	身の回りの作品などの形や色から、面白さに気付いたり、楽しさを感じたりしている。

○第3学年及び第4学年の評価の観点の趣旨

造形への 関心・意欲・態度	発想や創造の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
自分の思いで表現したり、鑑賞したりしながら、つくりだす喜びを味わおうとする。	感じたことや見たこと、材料や場所などをもとに表したいことを思い付いたり、形や色、用途などを考えたりしている。	手や体全体の感覚を働かせながら、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫している。	身近にある作品などの形や色から、表現の感じの違いをとらえたり、よさや面白さを感じ取ったりしている。

○第5学年及び第6学年の評価の観点の趣旨

造形への 関心・意欲・態度	発想や創造の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
自分の思いをもって表現したり、鑑賞したりしながら、つくりだす喜びを味わおうとする。	感じたことや見たこと、材料や場所などの特徴をもとに表したいことを思い付いたり、形や色、用途や構成などを考えたりしている。	感覚を働かせたり経験を生かしたりしながら、表したいことに合わせて材料や用具を使い、様々な表し方を工夫している。	親しみある作品などの形や色から、表現の意図や特徴をとらえたり、よさや美しさを感じ取ったりしている。

5 研究の仮説

学習活動の中で自分や友だちのよさに気づくような工夫を行っていけば、一人ひとりの感性が磨かれ、表現力が豊かになるだろう。

6 研究の手立て

自分や友だちのよさに気づくような工夫を行うために、以下のような手立てを行った。

【手立て1】自分や友だちのよさに気づくような場面設定
○鑑賞の機能を生かす ○発想や構想を行う時間の確保 ○手がかりとなる視点や方法の提示
【手立て2】学習用具・環境の工夫
○共有する学習用具の準備 ○コミュニケーションの場づくり
【手立て3】教員による言葉かけ
○肯定的な言葉かけ ○コミュニケーションの活性化

7 研究の実際

(1) 各学年の実践と具体的な手立て

1年生「チョッキンパでかざろう」

【手立て1】作品づくりの途中で鑑賞の機能を生かす

机を班にして、友だちの作成する様子や作品を自由に見ることができるようにした。出来上がった作品は、他の児童のヒントとなるよう、クリアファイルで展示した。「ほめほめタイム」では、友だちの作品を見ながら「いいな」と思ったところを、自分なりの言葉で伝えさせた。



2年生「コロコロ大きくせん」

【手立て2】共同で材料や用具を扱う

1ヶ月前から家庭に呼びかけ材料を集めた。「みんなのコーナー」を設け様々な材料を自由に使えるようにした。この題材で大切なことは、コロコロエンジンの不思議な動きをたくさん発見することである。グループごと長机を使った「おためしコーナー」で様々な材料を試すことができた。



3年生「ひみつのへんしんショー」

【手立て3】肯定的な言葉かけ

児童どうしの「いいねタイム」の他に、教員側からの「いいねタイム」を設定し、児童に表現のよいところなどをより具体的に伝えた。また、グループの話し合いの中に教員も参加し、児童の気づきを発言に促すなどコミュニケーションの活性化を図った。



4年生「いい場所見つけて囲んでみよう」

【手立て2】コミュニケーションの場づくり

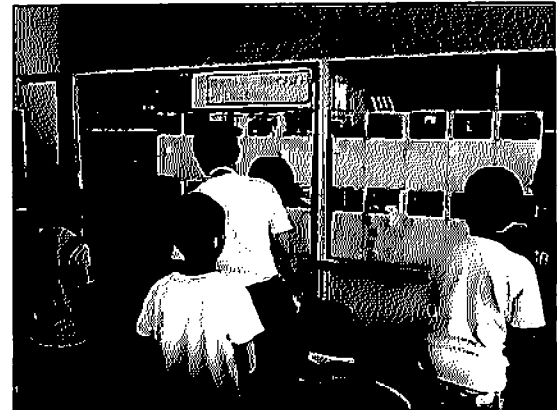
自由に話し合い、学び合いながら発想が広がるような場を設定した。教室に様々な方向からロープを張り、広い空間が利用できるようにした。家庭に協力してもらって集めた、様々な材質の紙袋で、グループごとに「特別な場所をつくろう」というテーマで自由に場所を囲んだ。



5年生「かくれんぼさんをさがせ」

【手立て3】コミュニケーションの活性化

鑑賞メモとして付箋紙を利用し、相手に伝えることができるようにした。このとき「①友だちの作品にどんな工夫やおもしろさがあるか。②自分だったらどんな工夫をするか。」の2つを鑑賞のポイントとして意識させながら活動にとりくませた。



6年生「墨のうた」

【手立て1】手がかりとなる視点や方法を提示

体育館の広いスペースで自由に作品づくりに取り組んだ。ヒントとなるよう、前時にとりくんだ、墨の濃淡を変えたり、いろいろな筆を使ったりした、試しの作品と、そこからイメージされる言葉を、壁に掲示した。仕上がった作品を並べるための「レッドカーペット」を体育館の中心に長く広げ、いつでも鑑賞できるようにした。



(2) 実践事例

- ①題材名 カードで味わう形・色
- ②対象 4年生
- ③内容 はがきサイズ程度の画用紙に色紙や色画用紙を切ったものを模様として貼り付け、形や色を楽しみながらイメージカードをつくる。

④仮説との関わり

【手立て1】自分や友だちのよさに気づくような場面設定

導入で、ペアやグループで、お互いがイメージしたことや表現したことを話し合させた。このときに、なぜイメージしたのかという根拠を話させることで、友だちとの共通点や、イメージの違いのおもしろさに気付かせた。また、イメージカードを作成するときにも、机を斑の形にして、お互いに作品を見合える環境にし、友だちの表現に関心をもたせることで感性が磨き合えるようにした。

【手立て2】学習用具・環境の工夫

材料や用具の一部をグループで共通で使用させ、使い方の工夫や組み合わせのおもしろさなどが共有できるようにした。

同じ色でも、紙の厚さやさわり心地など材質のちがうものを用意し、様々なイメージが浮かぶように工夫した。

【手立て3】教員による言葉かけ

導入では、数人の児童から話を聞き、お互いのイメージが違うことや、また、それが正しいことを話し、児童が心を開いて活動できるようにした。

イメージカードを作成している途中で、別のイメージに変わるようなときも、それを認め、感じ方が変化していくことも楽しめるように声をかけた。

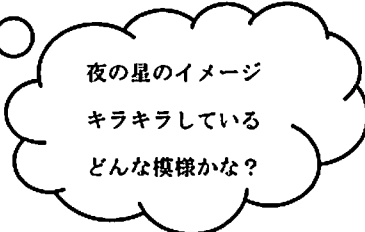
⑤本時の展開

時配	学習内容と児童の反応	指導・支援 ○評価
8	<p>1 形や色からイメージできる言葉、または音からイメージできる形や色について話し合う。</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start; margin-left: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">ピンク色</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-right: 10px;"> 優しい感じ 春っぽい 幸せそう </div> </div> <div style="display: flex; align-items: flex-start; margin-left: 20px; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">どんな感じ?</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-right: 10px;"> 痛い感じ 驚いた感じ 爆発 </div> </div>	<p>・形や色に対して、どのようなイメージをもっているのか、具体的なものをイメージさせてふり返らせた。</p>

- ・楽器の音を聞く。
- ・音を形や模様でイメージし、ワークシートに描く。

ウッドブロック ギロ

ウインドチャイム



- ・ペアでワークシートを見せ合い、交流。

・友だちの模様は、すごくおもしろい。
 ・音を描いてみると色も形も人によって違う。
 ・友だちと似ていた。

- ・目をつぶらせて楽器の音を聞かせて、形や色をイメージさせた。
- ・絵ではなく、模様で描くよう声をかけた。
- ・机を班の形にして、お互いの作品がいつでも見合える環境にした。

【手立て1】

- ・ペアやグループでお互いがイメージしたことを根拠をもたせて話し合わせた。

【手立て1】

- ・話し合いの場で児童どうしのイメージが違うことや、イメージに違いがあっても良いことを理解させるような言葉かけをした。

【手立て3】

- 形や色で表すことを楽しむとともに、友だちの表現にも関心をもっている。
- (関) [発言・ワークシート]

- 2 2 計画表を見て学習内容を確認し、本時の活動を知る。

色や形を組み合わせるイメージカードをつくらう

- ・活動の仕方を確認する。
- ・カードは次時のカルタ取りに使うことを知る。

- 25 3 イメージカードをつくる。

- ・できた模様から言葉カードをつくる。
 - ・言葉カードから模様を考える。
- 友だちに相談したり、アドバイスをしたりしながら活動を行う。



材料を共通で使う様子

- ・材料や用具をグループで共通で使用させ、使い方の工夫や組み合わせの面白さを共有できるようにした。

【手立て2】

- ・同じ色でも、紙の厚さやざわり心地など材質の違う物を用意し、様々なイメージが浮かぶようにした。

<児童の準備>
 ・色鉛筆
 ・はさみ

<教員の準備>
 ・色紙 (百色色紙・カラーホイル色紙)
 ・色画用紙
 ・おはな紙
 ・カラーペン
 ・スティックのり

- ・イメージを表す言葉の例を提示し、活動や交流が滞らないようにした。



完成した児童の作品



言葉の例

- 5 4 本時の活動をふり返る。
・感想を伝え合う。

・友だちのカードを見て、自分と違って
おもしろかった。
・同じ言葉カードだけど友だちは違う模様が
できていた。

- 5 5 片づけを行う。

○言葉をもとに形や色の組み合わせを考
え、いろいろと試しながら発想を広げ
て表すことができる。

(発) [観察・作品]

・作品の制作中に、イメージが変化する
ことを認め、感じ方が変化していくこ
とも楽しめるように声をかけた。

【手立て3】

・つくってみて思ったこと、友だちの作
品を見て思ったことが言えるように声
かけをした。

【手立て3】

○自分の感じ方を言葉にしたり、友だち
の見方、感じ方の違いやよさを味わっ
たりすることができる。

(鑑) [発言・観察]

⑥分析と考察

【手立て1】 ペアやグループでの話し合いでは、友だちとの共通点やイメージの違いの面
白さに気づき、それを伝え合うことができた。

【手立て2】 学習用具や材料を共通で使ったことで、友だちの作品を見る機会が増えた。
友だちのアイデアを取り入れたり、自分のひらめきを伝えたりする様子が見
られた。

【手立て3】 イメージカードを作成する途中で、新しいひらめきで別のイメージに変わる
ことも肯定した。感じ方の変化を楽しむことができた。

友だちの作品に対して、自分のイメージとの違いを肯定して伝えることが
できた。

友だちの作品を見て「おもしろい」や「なるほど」などのつぶやきが聞かれ、感じ
方の違いを実感できていると感じられた。鑑賞し合うなかで、自由に表現してよいこ
とがわかり、心を開いて思い思いのカードを作成することができた。進んで表現しよ
うとする姿が見られた。

8 研究の考察

【手立て1に関わる内容の考察】

児童は、作品をつくりながら、試行錯誤し自分なりの作品を完成させていく。その中でペアやグループの活動など友だちと関わる場面を意図的につくったため、友だちの作品にも関心をもつことができた。各学年で「ほめほめタイム」や「いいねタイム」「みてみてタイム」など鑑賞する時間を設定して交流を促し、よさを伝えることに重点を置いた。作品づくりの途中でこの時間を設けたことで、友だちのアイデアを取り入れるなど、その後の作品づくりに影響し合った。

単元の2時間目以降の授業では、前時の作品を見る機会を導入に取り入れ、手がかりとなる視点や方法を話し合った。作品のよいところを全体で認め合うことで「もっと、こうしたい」という意欲をもったり、自分の作品のよさに気づき自信をもてたりした児童が多くみられた。

【手立て2に関わる内容の考察】

材料、用具など、教員側が用意し、友だちと共通のものとして扱わせる工夫を行った。自然と見合ったり、アドバイスをし合ったりすることが増えていった。

個人の作品を作成するときは、共有の用具や材料について様々な種類を集め用意した。このことで、道具を貸し借りしながら作品について話したり、材料の使い方のひらめきを伝えたりすることが見られた。表現力の磨き合いが行われていたと考える。

グループで一つの作品をつくるときは、対話をしながら作品が生まれ、完成されていく。その中で、友だちのアイデアを賞賛する言葉が次々と聞かれるようになった。自分のものを取り入れてもらえる喜びを感じることもできたと考える。このような活動の中で、進んで表現しようという思いが育まれていったと思われる。

【手立て3に関わる内容の考察】

どの児童も自分の作品には思いがある。その思いを教員が見つけ肯定的な言葉かけを行った。教員側は児童に「どうしてそのように表現したのか」、作品づくりの過程で聞き、その思いを拾い上げて「〇〇のようにしたいから△△にした工夫がいいね」など、具体的にほめるようにした。さらに、それを全体の場で紹介することで、友だちの作品への気づきが増えていった。「ほめほめタイム」の言葉も、「うまいね」などの技術的な面に対する言葉から、具体的な言葉に変化してきたと感じている。このことから、作品への関心が高まり、作品の見方も変化していき、感性が磨かれていったと考える。

【実態調査の結果とその考察】

資料編

9 成果と課題

(1) 仮説について

27年度では、自分や友だちのよさに気づくような工夫をすると、友だちのよいところを取り入れるなど作品づくりに影響し合うことがわかった。しかし、作品づくりの、始めの段階で、「すぐに発想がうかばない」できたとしても「それを表現できない」という、一部の児童らの悩みもあった。このことから、28年度は、導入の工夫をしていくことも、研究のとりくみとした。特に、教員らの作成例の提示は、教科書を見るよりも材料の扱い方がわかるなど有効であったと考える。さらに、児童のつくりたいという意欲を向上させる効果もあった。反面、低学年の児童の中には、作品例に近づこうとする思いと、そうでなかった現実が、本人の作品の評価を下げてしまうことも見られた。教員の適切な助言で改善していく必要がある。

自分や友だちのよさに気づく活動として、意図的に関わり合う場を多くもつことに重点を置いて実践を行ってきた。一人では気づけなかったことや解決できなかったことも、よりよい方法を見つけられるようになった。お互いの表現から学び、感性の磨き合いが行われたと思われる。「よさをまねる」ことを肯定化してきたが、作品については、それぞれ個性のある作品が仕上がるようになってきている。これは、表現力の豊かさが伸びている結果である。

(2) 教員の意識の変容について（成果）

具体的な手立てを考え実践するなかで、教員の図画工作科の授業への意識にも、以下のような変容が見られる。

- ・教材研究をし、材料や手順の工夫をして作品例をつくることで、高い意識をもって授業にのぞむことができるようになった。
- ・授業について、試行錯誤ができるようになった。
- ・「自分の思いを広げ、進んで表現する」ことを実現させるために、「どんなことをしたら楽しいか」と考え、教員も授業が楽しくなった。
- ・一人ひとりの感性を大切にすることは、個性を大切にし、一人ひとりの思いを知るよい機会になり、学級経営にも影響している。

2年間の研究により、実態調査で見られる変化や児童の活動の様子を見ても、主題に迫ることができていると考える。しかし、課題として「自分の作品が好きではない」「自分のアイデアを作品にすることができない」と考える児童が数人いることも事実である。29年度は、そのように考える児童を追い、どのような教員の発問や声かけが有効なのか、どのような活動の工夫が必要なのかに視点を置き研究を進めている。

<参考文献>

- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』 日本文教出版株式会社 平成20年8月
- ・評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 【小学校図画工作】

文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター

27年度

第1回授業研修会	
3年2組	「長〜い紙 つくって」
第2回授業研修会	
1年1組	「チョッキン パツで かざろう」
2年1組	「ゆらゆら ウキウキ」
6年1組	「創造力で楽しむ鑑賞」
第3回授業研修会	
ひまわり・たんぼぼ学級	「きって はって すてきなステンドグラスをつくろう」
第4回授業研修会	
2年2組	「きって、ひねって、つなげると」
3年1組	「にぎって、ひねって、ひらめいて」
5年1組	「でこぼこ広場に絵の具が走る」
第5回授業研修会	
1年2組	「うつしてあそぼう」
4年1組	「カードで味わう、形・色」
6年2組	「写して見つけたわたしの世界」

28年度

第1回授業研修会	
2年2組	「つづきえ どんどん」
5年1組	「かくれんぼさん」をさがせ」
第2回授業研修会	
1年2組	「チョッキン パツで かざろう」
5年2組	「ゆらゆら ウキウキ」
第3回授業研修会	
ひまわり・たんぼぼ学級	「たいせつな人に絵手紙をかこう」
第4回授業研修会	
1年1組	「どうぶつむらのピクニック」
2年1組	「コロコロ大さくせん」
4年1組	「いい場所見つけて、囲んでみよう」
第5回授業研修会	
3年1組	「ひみつのへんしんショー」
4年2組	「願いの種から」
6年1組	「墨のうた」

自分や友だちのよさに気づくような場面設定【手立て1】



1年生「チョッキン パッ でかざろう」
ほめほめタイム



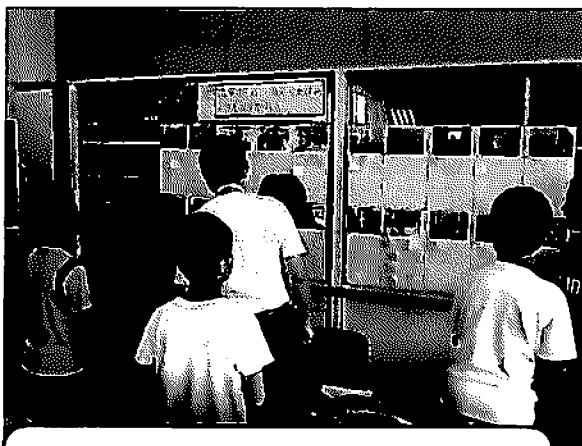
2年生「きって ひねって つなげると」
おしゃべりタイム・ありがとうカード



4年生「願いの種から」
お店屋さん方式



ひまわり・たんぼぼ学級
「絵手紙をかこう」
タブレットの活用

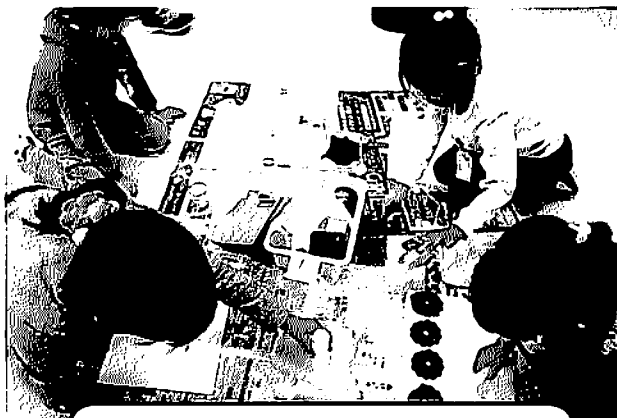


5年生「かくれんぼさんをさがせ」
付箋の活用

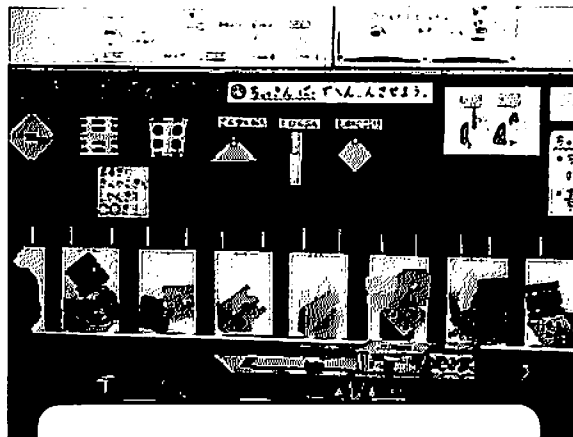


6年生「墨のうた」
いつでも鑑賞

学習用具の工夫【手立て2】



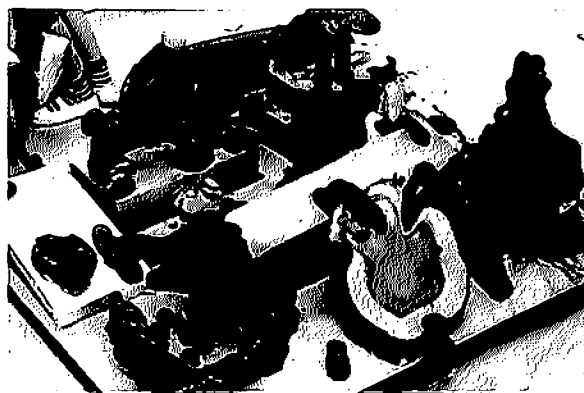
1年生「うっしてあそぼう」
共通で使う絵の具（スタンプ台）



1年生「チョッキンパでかざろう」
クリアファイルの活用



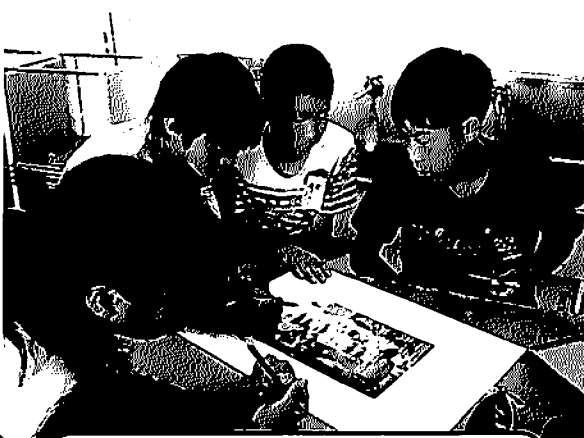
2年生「ころころ大きくせん」
みんなのコーナー



3年生「にぎって ひねって ひらめいて」
友達と作品をつなげる台座



4年生「いい場所見つけて囲んでみよう」
教室に張ったロープ
自分で集めた材料



6年生「鑑賞授業」
一つの絵から

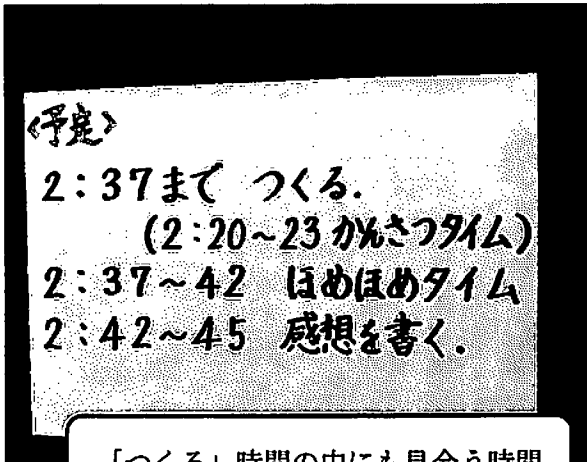
教員による言葉かけ【手立て3】



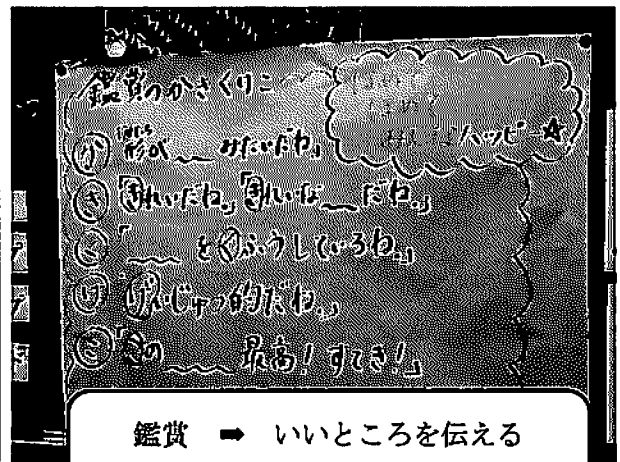
児童の気づきを賞賛



「よさ」を取り上げる



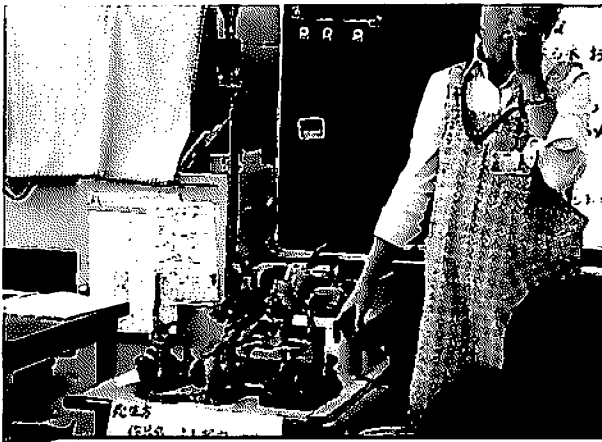
「つくる」時間の中にも見合う時間



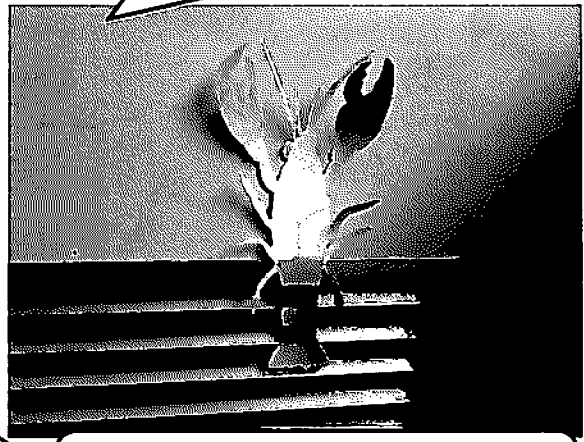
鑑賞 → いいところを伝える
 伝え方を提示 (鑑賞のポイント)

導入の工夫

教員の作品例で興味・関心を高める



3年生
 「にぎって ひねって ひらめいて」



5年生
 「かくれんぼさんをさがせ」

1 実態調査

以下に示す項目について、6月と12月に調査を実施し、児童の変容を見ることと、仮説の検証を行った。ただし、文章表現については、学年に応じた表現方法とした。

質問1 何をつくるかや、つくり方を考えるのは好きですか。

- ア とても好き イ 好き
ウ あまり好きではない エ 好きではない

質問2 友だちの作品のよさを見つけていますか。

- ア いつも見つけられる イ 見つけられることが多い
ウ 見つけられないことが多い エ 見つけられない

質問3 友だちの作品のよさを見つけ、それを伝えることができますか。

- ア いつも伝えられる イ 伝えられることが多い
ウ 伝えられないことが多い エ 伝えられない

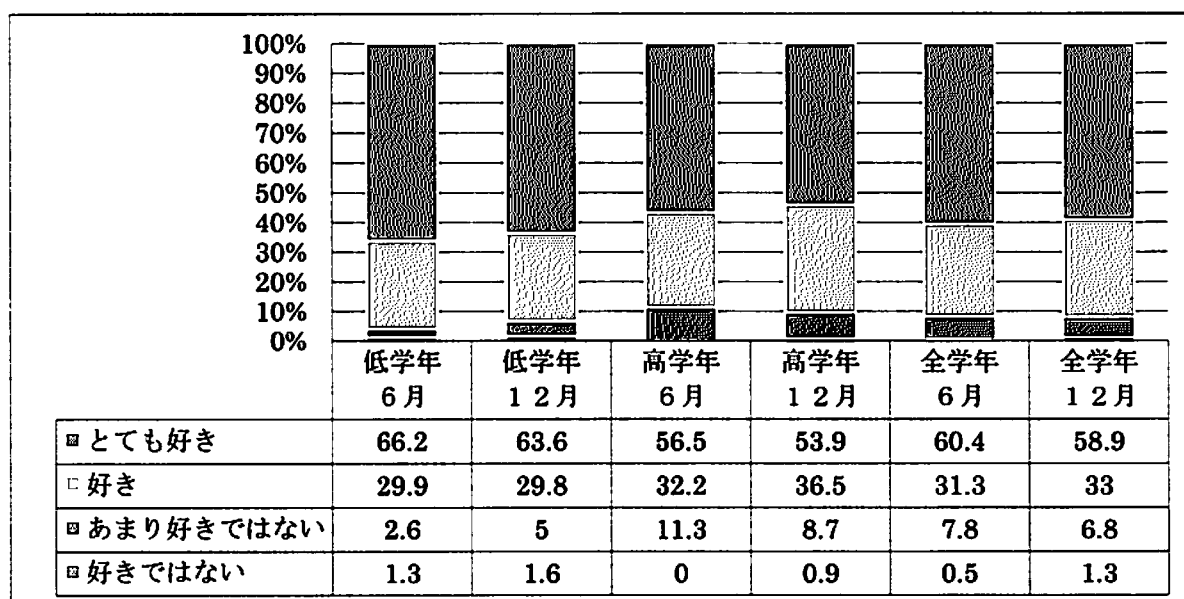
質問4 自分で考えたことを表現できていますか。

- ア いつもできている イ できていることが多い
ウ できないことが多い エ できない

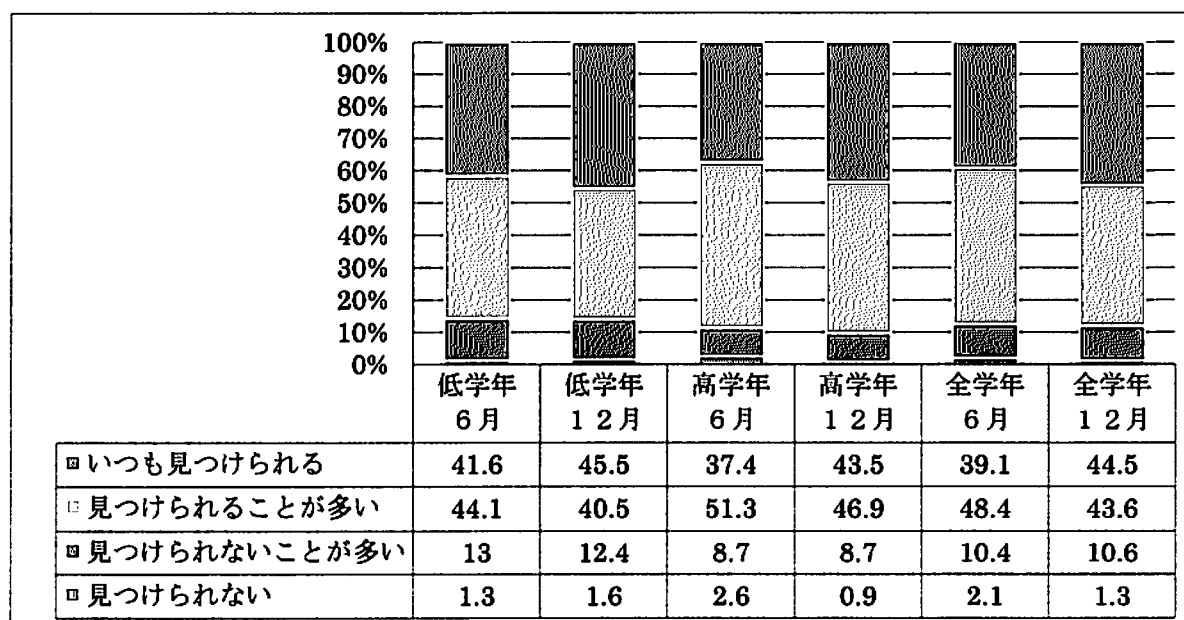
2 児童の変容

グラフは調査の結果を百分率で表している。

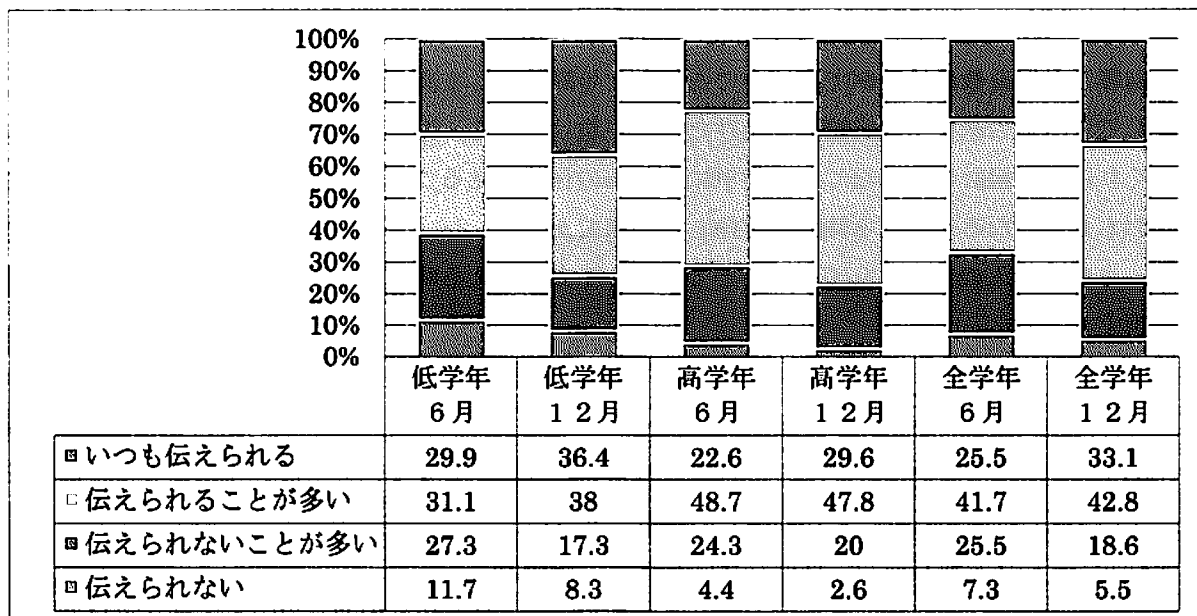
質問1：何をつくるかや、つくり方を考えるのは好きですか。



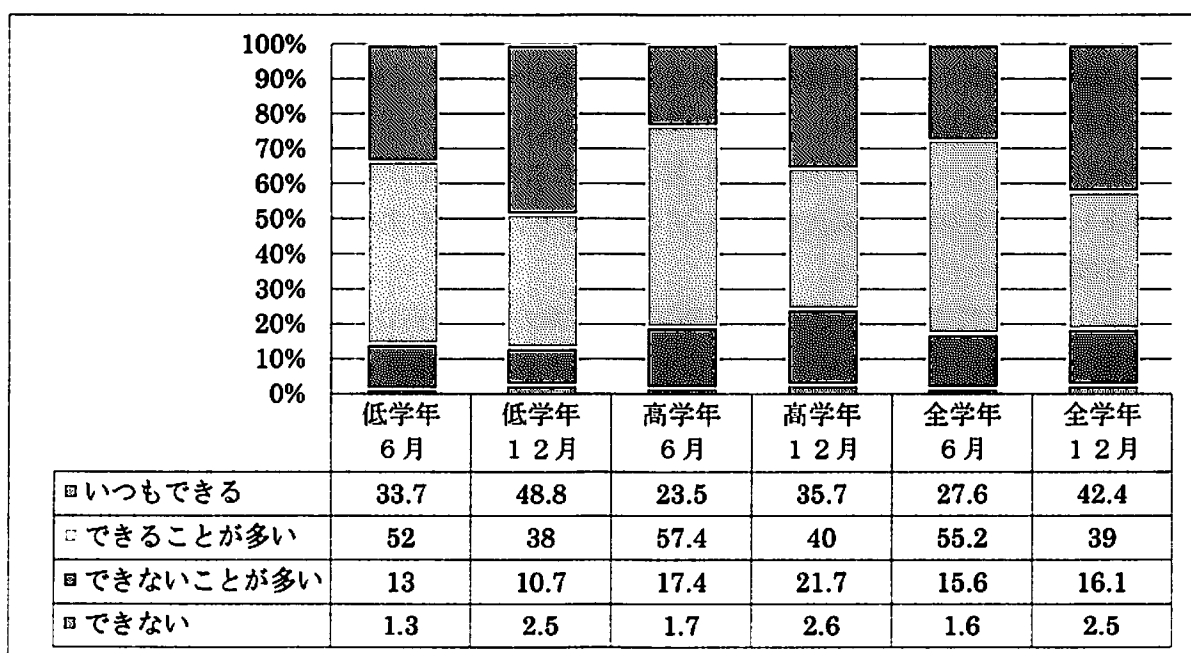
質問2：友だちの作品のよさを見つけていますか。



質問3：友だちの作品のよさを見つけ、それを伝えることができますか。



質問4：自分で考えたことを表現できていますか。



3 考察

○質問1「何をつくるかや、つくり方を考えるのは好きですか。」について、全学年でアやイと回答した児童数は約9割で横ばいであった。年間を通して高い数値となっている。この理由として、活動の途中で鑑賞時間を設けたことが挙げられる。児童が終始自分だけの発想で作品づくりに取り組むのではなく、活動中に友だちの作品を見ることにより、どうつくったらさらにおもしろくなるか考える時間を確保した成果である。

さらに導入の工夫をしていくことで、つくり方を考える時間を充実させることが今後の改善策として考えられる。

○質問2「友だちの作品のよさを見つけていますか。」について、全学年でアやイと回答した児童数は約9割で横ばいであった。年間を通して高い数値となっている。この理由として、活動途中で鑑賞の時間を設けたことに加え、学習の最後に充実した鑑賞活動を行ったことが挙げられる。こうした活動を通して見つけた「友だちの作品のよさ」が、次の活動へよい影響を与えることにつながっている。さらに内容を深めるために、具体的な鑑賞の視点を明確に提示する等の工夫が考えられる。視点を絞りすぎてしまうことに陥ってはならないが、よさを見つける手がかりを示したいところである。

○質問3「友だちの作品のよさを見つけ、それを伝えることができているか」について、アと回答した児童数の割合が増加し、ウやエと回答した児童数が減少した。質問2と関連して、児童にとってよさを見つけることは比較的容易な活動であるが、それを相手に伝えるとなると難しい活動となることが6月の調査結果からわかる。その難しく感じる活動についてアと回答した児童数が増加したことは、本研究の成果である。成果につながった例をあげると、「友だちの作品のよさをまねる」ことを肯定的に捉えさせたことである。まねはよくないと思われがちな意識を、指導者の助言で変化をもたらすことにより、「まねをする＝あなたのよさ」と相手に伝える機会となったのである。

しかし、他の質問に比べてウやエと回答する人数の割合が高いことも結果として表れている。質問2と同様、具体的にどう相手に伝えるかの手がかりを指導者が示していく必要がある。

○質問4「自分で考えたことを表現できていますか。」について、アと回答する児童数が増加したものの、ウやエと回答する児童数も微増する結果となった。児童が想像したできあがり、現実にできあがったものとの差が大きいためと考えられる。改善策として、教員が作品例を提示することがあげられる。児童が実現できる可能性があるものを具体的に想像できるようになると思われる。また、材料の扱い方や手順についても教員側が理解しておくことで、計画的に学習が進められると思われる。さらに、低学年では、題材に慣れさせる時間を確保する必要もある。例えば、ハサミを使う活動において、作品づくりに入る前に練習用の紙をたくさん切る活動を入れたり、絵を描く活動において、色の混ざり具合や描き具合を試す活動を入れたりすると改善されるのではないかと。単元計画を見直し、導入の工夫を行うことが、改善の糸口である。

1 実態調査

以下に示す項目について、5月と12月に調査を実施し、児童の変容を見ることと、仮説の検証を行った。ただし、文章表現については、学年に応じた表現方法とした。

質問1 何をつくるか想像したり、つくり方を考えたりするのは好きですか。

- ア とても好き イ 好き
ウ あまり好きではない エ 好きではない

質問2 自分のつくった作品は好きですか。

- ア とても好き イ 好き
ウ あまり好きではない エ 好きではない

質問3 自分のアイデアを作品にしたいと思いませんか。

- ア とてもそう思う イ そう思う
ウ あまり思わない エ 思わない

質問4 自分のアイデアを作品にすることができていますか。

- ア いつもできている イ できていることが多い
ウ できないことが多い エ できない

質問5 友だちの作品のよいところを見つけていますか。

- ア いつも見つけられる イ 見つけられることが多い
ウ 見つけられないことが多い エ 見つけられない

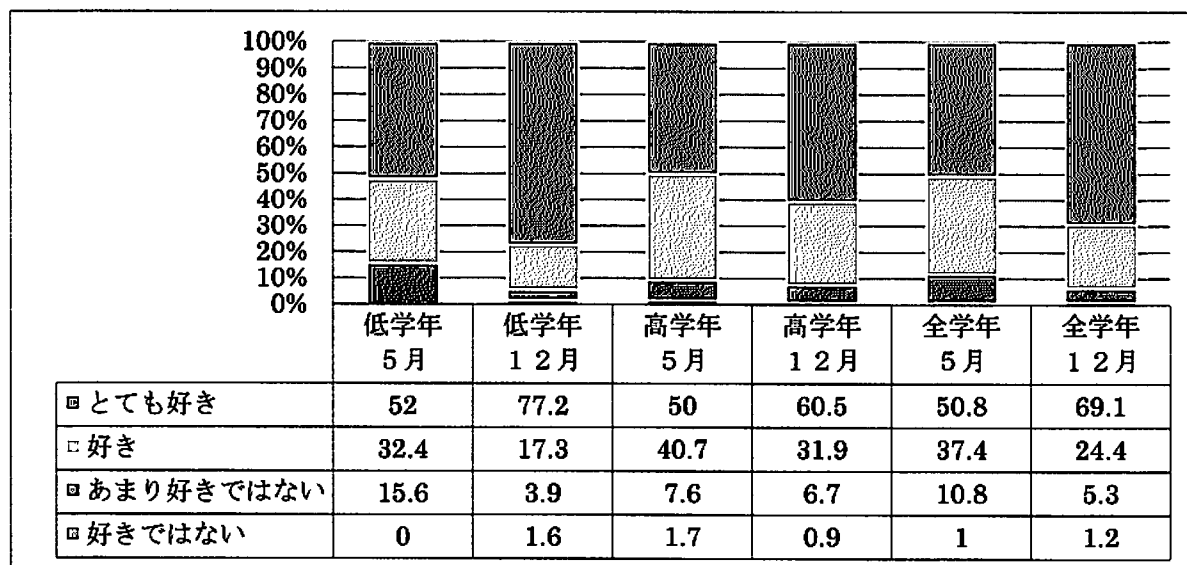
質問6 友だちの作品のよいところを見つけ、相手に伝えることができますか。

- ア いつも伝えられる イ 伝えられることが多い
ウ 伝えられないことが多い エ 伝えられない

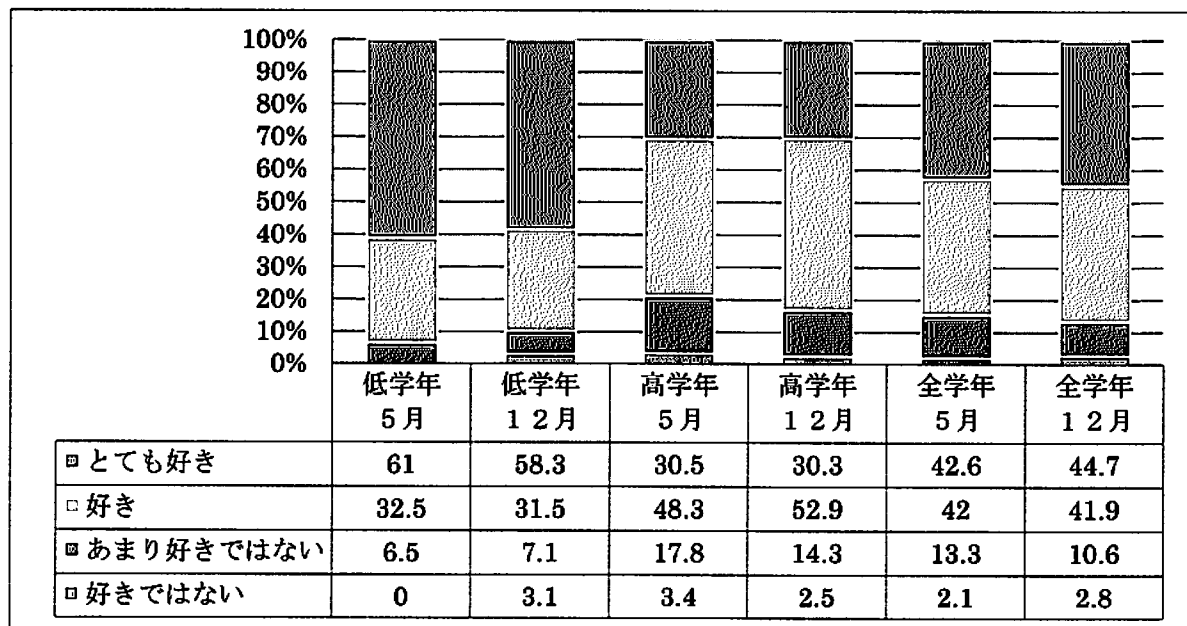
2 児童の変容

グラフは調査の結果を百分率で表している。

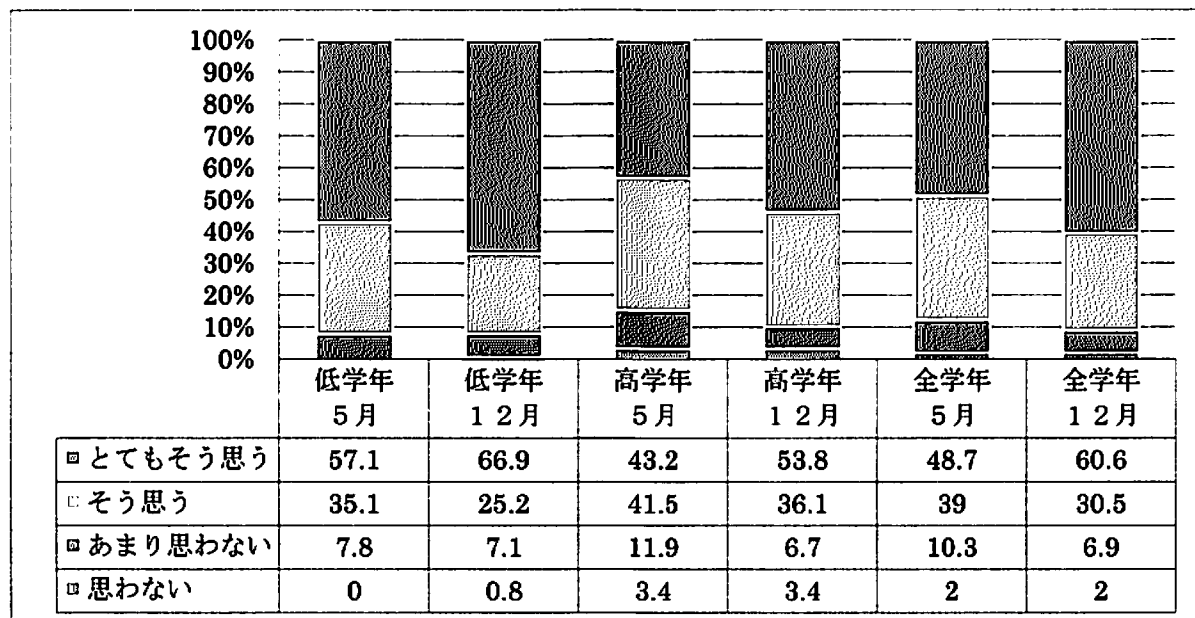
質問1：何をつくるか想像したり、つくり方を考えたりするのは好きですか。



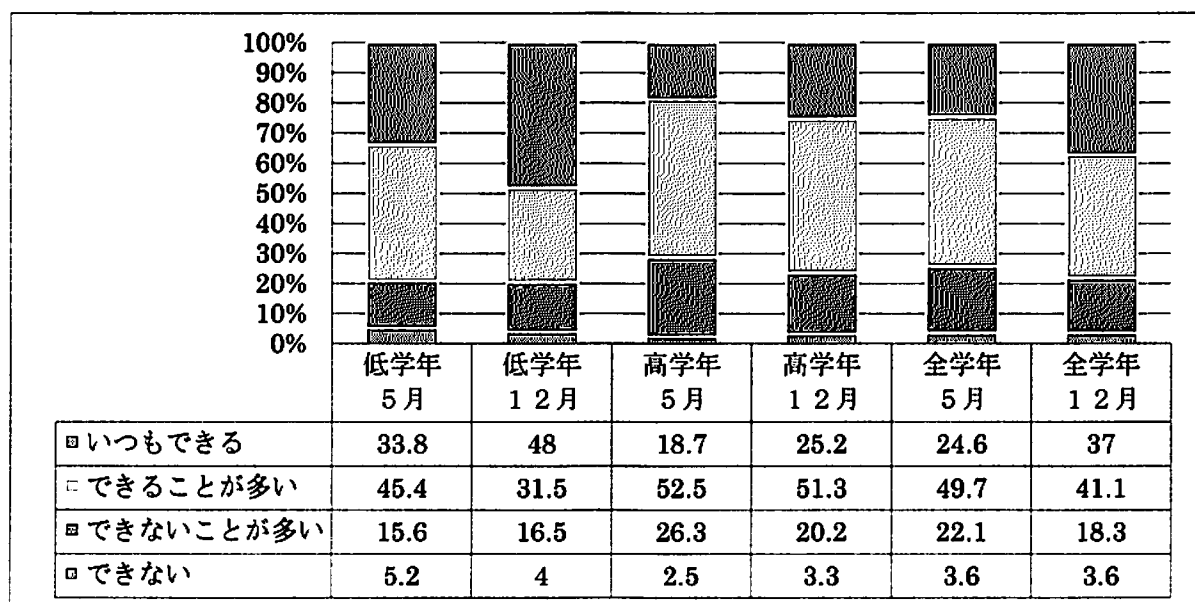
質問2：自分のつくった作品は好きですか。



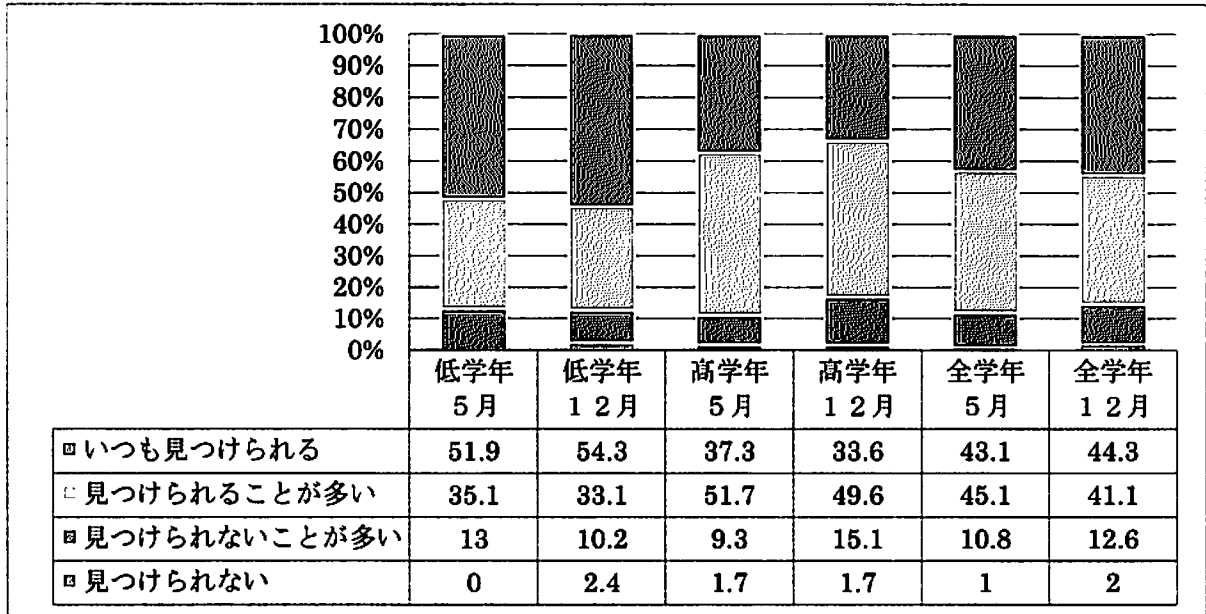
質問3：自分のアイデアを作品にしたいと思いませんか。



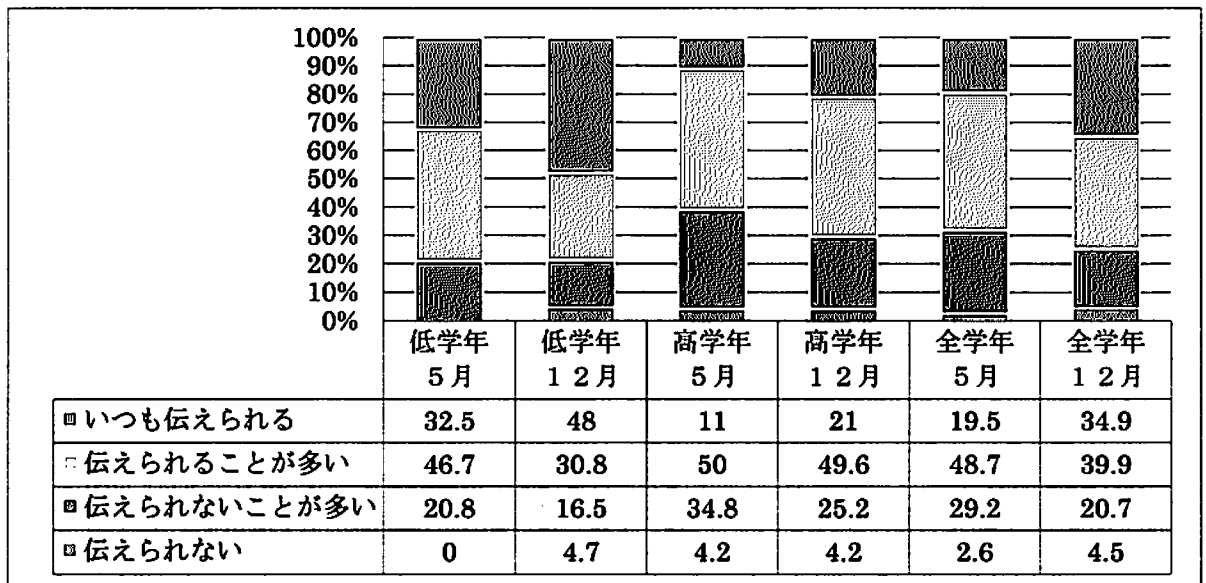
質問4：自分のアイデアを作品にすることができていますか。



質問5：友だちの作品のよいところを見つけていますか。



質問6：友だちの作品のよいところを見つけ、相手に伝えることができているですか。



3 考察

○質問1「何をつくるか想像したり、つくり方を考えたりするのは好きですか。」について、全学年でアやイと回答した児童数の割合は微増し9割を超えた。特にアと回答する児童数が18.3ポイント増加した。理由として、単元の導入場面において教員が作った見本を提示したことが挙げられる。それを見ることにより、漠然とした状況から方向性を見つけることができるようになった。また、作品例を参考にしなくても、自分で発想を広げていくことができるようになっていた児童も増加している。昨年度からの研究の成果がでていることが授業の様子からうかがえる。

○質問2「自分のつくった作品は好きですか。」について、低学年でアやイと回答した児童数の割合は微減したが、高学年では12.3ポイント増加した。低学年で微減した原因として、教員による作品例に近づくようにつくっても、できなかったことや、高い技術が必要な作品を思いついたが実現できなかった等が考えられる。発達段階を踏まえれば、こうした状況になりやすい。全部は実現できなくても部分的に実現できたことに対して称賛する等、教員の適切な助言が改善の手立てとなる。一方、高学年においては作品をつくるための様々な技能が向上し、自分で新たな表現方法を考え出したり、友だちのアイデアをアレンジしたりすることができたことがその要因となっている。

○質問3「自分のアイデアを作品にしたいと思いますか。」について、全学年でアと回答した児童数の割合が11.9ポイント増加した。その要因として質問1と同じく、教員の作品例等を見て、視覚的にヒントを得られたことが挙げられる。また、2年間の研究により、普段の授業からどんな工夫をするか高い意識をもって授業展開するようになった教員の意識の変化も要因の1つであると思われる。

○質問4「自分のアイデアを作品にすることができていますか。」について、全学年でアと回答した児童数の割合が12.4ポイント増加した。質問3から明らかになった「自分のアイデアを作品にしたい」という思いを実現できている児童数の割合が高いということがわかった。作品づくりの計画を立てる段階で自信をもっていなければこのような数値には至らない。児童一人ひとりが自分のアイデアに対して自信をもっていること、それを実現するための技能が向上していることが明らかになった。

○質問5「友だちの作品のよいところを見つけていますか。」について、全学年でアやイと回答した児童数の割合は約9割、年間を通して高い数値となっている。この理由として、活動の途中で鑑賞の時間を設けたことに加え、学習の最後にも充実した鑑賞活動を行ったことが挙げられる。さらに内容を深めるために、具体的な鑑賞の視点を明確に提示する等の工夫が考えられる。視点を絞りすぎてしまうことに陥ってはならないが、よさを見つける手がかりを示したいところである。

○質問6「友だちの作品のよいところを見つけ、相手に伝えることができますか」について、アと回答した児童数の割合が14.9ポイント増加した。質問5と関連して、児童にとってよさを見つけることは比較的容易な活動であるが、それを相手に伝えるとなると、そこに1つの壁が存在する。壁と感じるような「相手に伝える」という活動についてアと回答した児童数が増加したことは、本研究の成果である。成果につながった例を挙げると、「友だちの作品のよさをまねる」ことを肯定的に捉えさせたことである。まねはよくないと思われがちな意識を、教員の助言で変化をもたらすことにより、「まねをする=あなたのよさ」と相手に伝える機会となったのである。

図工の学習について

図工の学習で楽しいと思っていることや、がんばっていることなどを自由に書いてください。
(工作・絵・鑑賞・グループの活動など)

先生が今回はこんなことをやると言うので、アイデアがたくさん出るので色々な作品や糸会が作れたりかけたりして楽しんでいます。グループで活動するとまた自分とは違うアイデアが出てきておもしろいです。かん賞では同じ場所ややり方でも一人一人が違って、こんなふうになったりするので楽しいです。糸会は小さいところまでかいたりするときには細かいものを使うだけ使ったり、するとかき糸が切れたときにやめた終わったと思って、気持ちよく楽しんでいます。まただいたんに大きくかくとスッキリしたり、そうかい感がありこれもまた気持ちがいいのでおもしろいです。色づかしもちょうせいなどをしてかいています。



図工の学習について

図工の学習で楽しいと思っていることや、がんばっていることなどを自由に書いてください。
(工作・絵・鑑賞・グループの活動など)

図工は、作品を作った後に鑑賞するのがとても楽しいです。友達がどんな事を思い、作品を作ったのか考えたりするのがとてもおもしろいと思います。また、よかった友達の作品を発表してみんなに見せることにより、次の自分の良い作品作りにもつながるのでいいと思います。

図工は、グループやペアでやるとより楽しいと思います。相手の意見と自分の意見を組み合わせるとまたさらに良い作品になると思います。

私は、図工で自分のアイデアや工夫を入れつつも色あざやかにするのを、いつも目標として行っています。

工作や絵も他の人は少しちがうような、おもしろい、新しい作品を作ろうと行っています。そういうのを考えたりするのがとても楽しいので、私は図工が大好きです。



図工の学習について

図工の学習で楽しいと思っていることや、がんばっていることなどを自由に書いてください。
(工作・絵・鑑賞・グループの活動など)

私は図工の学習の中で、絵を描くこととグループ活動が特に好きなので、絵を描く学習では、こまかいところをいかにに描いたり、絵の具の色をぬるときに水の使い方にくふうしたりするのをはかっています。また、上手に描けるととてもうれしいのでとても楽しく絵を描きます。グループ活動では、自分の意見をまとめたり、友達の意見をよく聞いて、自分の意見をより深められることを目標にして作品を作ったり描いたりできるようにしたいし、グループのみんなと意見を言い合って「ナットク」したり、してえらったりするのも楽しいのでまたやりたいです。でも、自由に作る作品などに題名をつけたりするのは少しはがてなのでもそこもがんばりたいです。



図工の学習について

図工の学習で楽しいと思っていることや、がんばっていることなどを自由に書いてください。
(工作・絵・鑑賞・グループの活動など)

工作...どんな作品にするか考えるのをとくにかんばっています。
絵...水でうすめて、色のこさをちょうどいするのが楽しくて、たまにうまくいかなかったときがあるけど、それが自分の作品なんだと思います。
鑑賞...友達や自分の作品のよいところを見つけるのが上手になるようにがんばります。
グループの活動など...グループではチームワークの仲を深められるように、たくさん意見を出し合って、ミテ、みんなのときのように、みんなでどんな作品なのかを考えるのも、生かしたいです。



図工の学習について

図工の学習で楽しいと思っていることや、がんばっていることなどを自由に書いてください。
(工作・絵・鑑賞・グループの活動など)

図工の学習では一番がんばっていることは、工作と絵です。なせなら、工作は作るのも楽しいし、自分の思った物を作ったり、むしろ難しい物もどんどんチャレンジして作ったりすることができるので、楽しいし、がんばっています。次は絵で、絵画は、特にもしかた好きで、遠近法など、立体的に絵画を描くのが好きで、その自分の気に入った絵を、写して書くというのが、すごくおもしろく、リアルにかけた時、すごく達成感があるから、がんばることも、工作も絵も、どちらも、かいたり、作ったり、することが、できるからです。



図工の学習について

図工の学習で楽しいと思っていることや、がんばっていることなどを自由に書いてください。
(工作・絵・鑑賞・グループの活動など)

工作は、自分の考え、イメージなど、考えたいので、どんなものでもつくれる、町にある、つくても、家も、一つ一つが、工作の作品で、とても、いいと思ってる。空の、工作の時間は、とても楽しいから、さいらうの数も気にせず、自由に作りたいたい、とか、もっと、かいたいものを作りたい、とか、思うことがある。

絵画は、自由にできるもの、立体的な表現などの高い、絵画は、なので、うまくできないうち、とても好きです。

鑑賞は、グループで話しあえる時以外では、あまりおもしろくない、自分の考えを、皆に広めたい。

グループ活動は、絵以外なら、なんでも楽しい、皆でやるから、そ出てくるイメージ、アイデアから、いいところを取り、グループで協力してやる活動は、とても楽しい、逆に、それができないうち、とてもつまらない。

